原田環境大臣発言原稿

於 IRENA総会　オープニング（ステートメント）

2019年1月11日（金）09:30～

１．導入

* まず始めに、IRENAの活動を通じ、世界における再生可能エネルギーの普及・導入促進に大きく貢献してきたアミン事務局長、また、関係者の皆さまに心より敬意を表します。

２．気候変動への取組

* 昨年10月のIPCC特別報告書によると、1.5度目標を達成するためには今世紀半ばには二酸化炭素 の排出量を実質ゼロにする必要があるとされており、再生可能エネルギーの大幅な供給が予測されています。
* 先月ポーランドで開催されたＣＯＰ２４では、パリ協定の精神に則り、二分論によることなく、全ての国に共通に適用される実施指針がまとめられました。パリ協定実施の鍵である透明性に関して、我が国は、昨年10月に打ち上げに成功した温室効果ガス観測技術衛星「いぶき2号」を通じて、各国の温室効果ガス排出量のインベントリの精度向上に貢献してまいります。
* 我が国は、過去４年連続で温室効果ガスを削減してきた実績があり、2030年度26％削減という我が国の目標に向けた対策を着実に実施していきます。また、地球温暖化対策と経済成長と両立させながら、2050年までに80%の温室効果ガスの排出削減を目指していきます。

３．IRENAへの貢献及び我が国の取組

* これまでに、我が国は、IRENAへの協力を通じ、再生可能エネルギーの利用拡大に向けた水素の技術課題や経済的競争力の評価、東アフリカにおける地熱発電及び島嶼国における再エネ導入促進にかかる人材育成、ASEAN及び南アジアにおける再エネ拡大、途上国における食料供給と両立するバイオエネルギー利用促進に関する支援等を実施してきました。
* 再生可能エネルギーを始めとする気候変動対策は、コストではなく成長と競争力の源泉です。我が国は、今年のG20 議長国として「環境と成長の好循環」を実現する世界のモデルとなるべく取組を進めます。
* また、我が国においては、脱炭素化とSDGsを実現するため、「地域循環共生圏」という将来ビジョンを構築しました。再生可能エネルギーに代表される地域に豊富にある資源を活用し、分散型エネルギーを基軸として、近隣地域等と補完し支えあう、将来にわたって質の高い生活と持続可能な社会へのシフトを目指していきます。
* さらに、我が国では昨年、第５次に当たるエネルギー基本計画において、初めて再生可能エネルギーを主力電源化していくと閣議決定しました。入札制の拡大などコスト低減の取組を強化しつつ、長期安定的な事業運営を確保し、あわせて系統制約の克服や調整力の確保などの取組を進めていきます。

３．結語

* 我が国は、引き続き、国内での主力電源化に向けた再生可能エネルギー施策を進めるとともに、主要ドナーとして、財政・人的貢献や，研修やセミナーの実施を通じた人材育成・知的貢献などにより，ＩＲＥＮＡの活動を支援していきます。
* ありがとうございました。